

令和6年度芦東山記念館運営委員会 会議録

- 1 会議名 令和6年度芦東山記念館運営委員会
- 2 開催日時 令和7年3月10日（月）午後1時30分から午後3時10分まで
- 3 開催場所 芦東山記念館ホール
- 4 出席者
 - (1) 委員 菊池徳夫委員（委員長）、及川雅晴委員（副委員長）、片岡龍委員、菊池和房委員、新渡戸恵子委員、千葉耕士委員、佐藤啓委員
 - (2) 事務局 中村安宏名誉館長、佐藤信彦館長、千葉修子館長補佐、高橋紘主任学芸員、張基善専門学芸調査員、千葉真由美業務推進員、千葉浩子業務推進員
- 5 議題
 - (1) 令和6年度事業経過報告
 - ア 令和6年度自主事業実績報告等
 - イ 令和6年度調査研究事業実績報告
 - (2) 令和7年度事業計画（案）
 - ア 令和7年度事業計画（案）
 - イ 令和7年度調査研究事業計画（案）
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者 なし
- 8 挨拶

中村安宏名誉館長

昨年4月から名誉館長を務めさせていただいております、中村安宏と申します。どうぞよろしく申し上げます。本日は年度末のお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。

岩手大学人文社会科学部で日本思想史の教育を担当しております。専門は近世の儒学で、佐藤一斎、室鳩巢などに取り組んでいます。芦東山については、室鳩巢から芦東山が何を学んだかについて、論文にも少し書いたことがあります。そのため、第1回名誉館長講座で、芦東山が室鳩巢からどういうことを受け継いだかというお話しをしました。芦東山を近世の思想史の中で、どう位置付けるかということのを少し考えていきたいです。日本思想を地域の中で捉えることを意識するようになり、盛岡藩の学問や教育、出版についての研究を行っております。

来年度は仙台藩の教育ということで4回の名誉館長講座を行いたいと考えております。私が現役の大学教員ということで、これから大学との関係、学生との関わり、もちろん

地域との関わりも考えていきたいと思います。また、令和9年度に本館は開館20周年を迎えます。それに向けて、いろいろなアイデアを出し合いながら考えていけたらと思います。来年度も名誉館長を務めるので、今後ともよろしくお願いいたします。

9 審議内容

(1) 令和6年度事業経過報告

ア 令和6年度自主事業実績報告等

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 1回目の特別展「キラメク世界の蝶」について、小学生、中学生の孫を連れて見に来た。これは一生懸命見ていた。これ以外の特別展は難しい字が出てくるので、理解できないし、読めない。子どもたちに合わせたものがあると良い。

事務局 子どもたちでもわかるような展示の工夫やワークショップの開催など、誰でも来やすいようなものにしたいと思う。

委員 小学校で先人教育を進めていくうえで、少なくとも大東地区の小学生には、芦東山先生の名前と簡単な業績は全ての子どもたちが言えるようにしたいと思っているが、学校行事の合間を縫って芦東山記念館に来るということをなかなか宣伝できなかった。スクールバスを利用すると無料でここまで来られる。特別展の開催など校長会で紹介したいと思う。

また、一関市民俗資料館には社会科の学習で多くの学校が来ていると思う。そこで民俗資料館と芦東山記念館をセットで見学できればよいと思っている。

委員 地域からの協力について、地元の区長さんはこの記念館ができる前の芦東山先生記念館の時代から、自治会の会員らとともに、また個人的にも、草刈りや樹木の剪定を一生懸命やってくださっている。芦東山先生顕彰会の副会長をこの間まで務めていたが、副会長を辞めても作業はやるからとってくださる非常にありがたい方である。隣の方も時々草を刈ってくださる。地域の方々には特別頼んだわけではないけれども、自主的に作業をしてくださる方がいらっしゃる。

事務局 なかなか事務局では手が回らないところに、地元の方々に時節にやっただけ、大変ありがたく感じている。

委員 蝶を借りてくるのは大変だったのではないか。

事務局 大変だった。歴史系の資料と蝶の取扱いの仕方が全然違う。蝶の標本をまとまって所蔵しているところが少ないということもある。今回の特別展は奥州市のめんこい美術館に標本がまとまって所蔵されており、それを借りるこ

とができ、開催できた。

委員 団体利用で、向中野とあるが盛岡市か。

事務局 そのとおりである。

委員 新型コロナウイルス感染症の関係で団体の利用数が少なくなった時期もあった。復活してきたか。

事務局 復活してきた。市民センター事業での利用も出てきている。そういうところは繰り返し利用していただけるよう対応していきたい。また、それだけではなく、もう少し広い範囲でいろいろな団体の皆さんに利用いただけるよう働きかけをしていく。

名誉館長 講演会の配布資料も見やすいように改善していきたい。

委員 BSよしもと『なにもしない散歩』の取材は、どういう内容だったか。

事務局 出演者が主任学芸員の案内のもと常設展示を見学し、その内容を受けて、自由律俳句を詠むという内容だった。BSよしもとの地域創生をコンセプトとした番組で、3月中に放送される。

委員 毎年行われている特別展は、職員も頭を悩ませているところだと思う。歴史関係だけやっても集客にならない。歴史関係と違う分野、例えば造形美術関係とか演劇関係とかいろいろな展示が考えられるのではないか。その場合資料をよそから借りてきたり、作ったりで大変だと思うが。

事務局 個人を取り上げた記念館の中で、これだけしっかりとした常設展示を持っているところはあまりないと思う。しっかりとした質の高い常設展示を見てもらうためにも、なるべくいろいろな方に足を運んでもらえるきっかけとして、いろいろな展覧会をやっていきたいと思っている。

委員 昨年12月、引き札に関する講座を摺沢史談会で開いた。記念館では江刺から借りてきたようだが、話しかけてもらえば、協力できたかもしれない。引き札は大原や興田にもあったのではないか。

事務局 町内で心当たりのある方に声をかけたが、見付けかねてしまった。地元の資料がどこにあるのか、あまり把握できていなかった。来年度以降は史談会等に相談しながらやっていければと思っている。

委員 昭和の時代、年末年始に店に行くと暦をもらった。明治時代も店の宣伝とかそういう使い方をしていたのではないか。どこに現存しているか調べるのは難しいかもしれないが。

事務局 大東を中心にしながら、資料の所在確認なども少しずつやっていければと思っている。東磐井というフィールドの中で題材を探し、展覧会を実施して

いければと考えているので、引き続きご協力をいただければ大変助かる。

委員 7ページの令和6年度に作成したその他のページの芦東山記念館館長講座の資料公開というのは、昨年度までの館長講座の資料のことか。アクセス数が661というのは結構なアクセス数だと感じている。ほかのページは、こういうイベントを探してみよう、ということでアクセスするのに対し、資料公開はかなり目的意識を持って、アクセスしたと思い驚いた。それも今年のもではなく、これまでのものがアクセスされている。ホームページの中でこのような資料的な公開はほかにあるか。

事務局 歴史資料であれば記念館で持っている資料をいくつかの群に分けて、目録は公開している。

委員 かなり目的をもっている方がこれだけいらっしゃるのだと思った。その辺のニーズを発掘して対応できると良いのではないかと思う。

イ 令和6年度調査研究事業実績

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 購入した芦東山の資料はいくらくらいするものか。

事務局 だいたい古書店のほうで値段を付けて売っている。今回は5万円弱で購入した。歴史関係資料は定価があるわけではなく、書店が判断するもの。以前に比べれば少し高くなったような気がする。

委員 インターネットオークションを見ると、岩手県南部周辺の古文書が毎日売られている。

事務局 芦東山のことを知っている方が、これは芦東山の関係資料ではないかと情報をくれることもある。

委員 芦東山関係資料の一番の問題は、本人が「とうざん」という名前を必ずしも使用していないということ。東山という名前が入っていない資料が世の中には結構ある。

事務局 ニックネームみたいな名前を付けていたりすることもある。また複数の雅号を用いたりするので、芦東山という名前だけでは見付けられないものも多い。

委員 これからも思わぬところから出て来る可能性があるのではないか。

事務局 その通り。蔵の7、8にあるように芦東山という名では出てこないが、中身に芦東山が出てくるものがこれから出て来る可能性はある。

(2) 令和7年度事業計画（案）について

ア 令和7年度自主事業計画（案）について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 特別展①は誰を取り上げる予定か。

事務局 できるだけ地元に残っているものを使いながら旅人を紹介したいと思っている。まだ誰を取り上げるか決まっていない。いろいろな資料を見ながら詰めていきたい。民俗資料館とも連携しながら、旅人をどう迎えたのか、取り上げると面白いと思っている。

委員 特別展②、③では大々的に古代中世史を取り上げるということか。東川院の観音様とも関係しているようだ。

事務局 実は観音様と水無Ⅰ遺跡は関係している。地元の東川院や渋民の歴史を考える上で実施しておきたい企画である。なぜ東磐井に平泉の藤原氏の時代の御仏様がたくさんあるのか、というような地域性にもつながってくる。そういう豊かな土地、重要な土地であったこともあって、東山のような人が生まれて来る、というような話をしたいと思っている。

イ 令和7年度調査研究事業計画（案）について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 芦家に関わるいろいろな資料がたくさんあるが、調査がまだまだ行き届いていないものがあって、それらを明らかにしていくことが大きな課題の一つになっている。

10 その他

事務局 運営委員の任期は今月いっぱいとなっている。これまで2年ずつで任期を設定している。委員の皆さんには留任をお願いしたいが、難しい場合は申し出ていただきたい。4月に委嘱状を交付することとしている。

11 担当課 芦東山記念館